



埼玉県マスコット「コバトン」

第5回

埼玉農業大賞表彰式

と き：平成 26 年 11 月 8 日(土)

と ころ：所沢航空記念公園

Saitama Agricultural Awards



— 埼玉県 —



目 次

1	埼玉農業大賞について	1
2	選考経過報告	2
3	埼玉農業大賞受賞者	3
4	埼玉農業大賞 農業ベンチャー部門受賞者紹介	4
	立澤淳一・輝彦	5
	株式会社内野農場	6
5	埼玉農業大賞 地域貢献部門受賞者紹介	7
	吉田昌男・紀子	8
	加藤博司・政代	9
	奈良加工研究会コスモス	10



本日、第5回埼玉農業大賞を受賞される皆様に心からお祝いを申し上げます。

埼玉農業大賞は、革新的な農業経営に取り組み、埼玉農業の振興や地域活性化に貢献された方々の功績を称えるとともに、そのビジネスモデルを広く発信し、更に発展させていくことを目指しています。

このたび受賞された皆様の農業経営に対する並々ならぬ熱意とたゆまぬ努力に対し、深く敬意を表します。

農業の発展には「労働」、「資本」、「技術」の3つが重要と言われています。埼玉県農業には、この3つの要件である、優れた担い手、肥沃な農地、先進的な技術が備わっています。

そして、約4,300万人の消費者を擁する首都圏に位置し、ヒトとモノが容易に移動できる交通の要衝であり、多数の食品関連企業があることも大きな強みになっています。

こうした条件から、農業産出額が全国第4位の花き、第6位の野菜をはじめ、米、麦類、果実、畜産など多彩な農畜産物が生産されるとともに、近年では、これらの農畜産物を自らが加工・販売する農業の6次産業化の取組が盛んに行われています。また、埼玉での農業経営を志す新規就農者や農業参入企業も増加しています。

本県の農業は非常に勢いがあります。本年2月の大雪では大きな被害を受けましたが、これをバネに埼玉農業が成長産業としてますます発展していくよう、私は全力で取り組んでまいります。

このたび受賞されました皆様には、優れた技術や経営能力を存分に発揮していただき、引き続き埼玉農業の発展に格別のお力添えを賜いますよう心からお願い申し上げます。

平成26年11月8日

埼玉県知事 上田清司

1 埼玉農業大賞について

(1) 趣旨

埼玉農業大賞は、革新的な農業経営や地域農業の振興に優れた功績を上げている農業者に、知事の表彰状を贈り、その成果を称え広く紹介することによって、本県農業の持続的な発展に資するものです。

(2) 表彰

賞の対象は、県内で意欲的に農業を営む個人・法人又は団体とし、埼玉農業大賞に、農業ベンチャー部門及び地域貢献部門を設けています。

表彰は、農業ベンチャー部門及び地域貢献部門で、最も優秀な者それぞれ1点以内を大賞とし、また、大賞に次ぐ優秀な者それぞれ3点以内を優秀賞として賞します。

(3) 主催

埼玉県

(4) 後援

埼玉県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会埼玉県本部、
埼玉県信用農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会埼玉県本部、
埼玉県農業会議、公益社団法人埼玉県農林公社、一般社団法人埼玉県畜産会

(5) 特別協賛

J Aグループさいたま
株式会社協同商事コエドブルワリー、株式会社ひびき、弓削多醤油株式会社、
お菓子な郷推進協議会

2 選考経過報告

(1) 募集

農林部地域機関、市町村等の長に対し、平成26年5月27日(火)から平成26年7月8日(火)までの間、埼玉農業大賞の募集を実施した結果、農業ベンチャー部門4点、地域貢献部門7点の推薦がありました。

(2) 選考

埼玉農業大賞表彰要綱第5条第2項の規定に基づき、埼玉農業大賞選考委員会を組織し、次のとおり選考委員会を開催しました。

ア 埼玉農業大賞選考委員会幹事会の開催

平成26年8月19日(火)、埼玉会館4A会議室において、埼玉農業大賞選考委員会幹事会を開催し、予備選考を実施しました。

イ 埼玉農業大賞選考委員会の開催

平成26年8月26日(火)、埼玉会館4A会議室において、埼玉農業大賞選考委員会を開催し、農業ベンチャー部門及び地域貢献部門の大賞及び優秀賞の選考を実施しました。

埼玉農業大賞選考委員会

役職	氏名	役職
委員長	井上 清	一般社団法人全国農業改良普及支援協会顧問
副委員長	永島 朗	埼玉県農業協同組合中央会常務理事
委員	伊藤 博道	中小企業診断士
委員	原 珠里	東京農業大学国際食料情報学部教授
委員	新井 重雄	茶業・会社役員

(3) 選考結果

推薦されました事例はいずれも革新的な農業経営に取り組み、また、地域農業の振興や活性化に優れた活動を行うものであり、選考は難航しました。

選考の結果、埼玉農業大賞農業ベンチャー部門の大賞として1名、優秀賞として1法人、地域貢献部門の大賞として1名、優秀賞として1名と1団体を第5回埼玉農業大賞受賞者といたしました。

3 埼玉農業大賞受賞者

(1) 農業ベンチャー部門

敬称略

区 分	受 賞 者 名
大 賞	<small>たつざわ</small> 立澤 <small>じゅんいち</small> 淳一・ <small>てるひこ</small> 輝彦 (越谷市)
優秀賞	株式会社 <small>うちののうじょう</small> 内野農場 (川島町)

(2) 地域貢献部門

区 分	受 賞 者 名
大 賞	<small>よしだ</small> 吉田 <small>まさお</small> 昌男・ <small>のりこ</small> 紀子 (所沢市)
優秀賞	<small>かとう</small> 加藤 <small>ひろし</small> 博司・ <small>まさよ</small> 政代 (入間市)
	<small>ならかこうけんきゅうかい</small> 奈良加工研究会コスモス (熊谷市)

4 埼玉農業大賞 農業ベンチャー部門 受賞者紹介

農業ベンチャー部門大賞

たつざわ じゅんいち てるひこ
立澤 淳一・輝彦

1 経営概要

- (1) 住 所 越谷市東町
- (2) 代 表 者 立澤 淳一
- (3) 経営内容 トマト 3,300 m²、ミニトマト 800 m²、パンジー 2,500 m²
ビオラ 2,500 m²、露地野菜 3,000 m²

2 受賞理由

- (1) 平成8年度に販売部門を法人化し、消費者の多い都市地域での直売経営を確立している。
- (2) 消費者ニーズに合わせて、家庭用の小袋販売や大玉トマト・フルーツトマト等を組み合わせた贈答用パッケージとして販売を行っている。
- (3) 色や風味が異なるトマトの品種の味を生かした10種類のジュースを商品化した。
- (4) パンジー、ビオラを販売するほか、生産現場を一般公開する期間を設けることで顧客との交流が深まりリピーターの確保につなげている。



立澤淳一氏(左)、立澤輝彦氏(右)



にじいろトマトジュース

農業ベンチャー部門優秀賞

株式会社 うちののうじょう 内野農場

1 経営概要

- (1) 住 所 川島町芝沼
- (2) 代 表 者 代表取締役 うちの内野 まさお正雄
- (3) 経営内容 小麦70ha、大麦15ha、水稻50ha、
水耕ねぎ0.5ha

2 受賞理由

- (1) 8人の従業員を雇用し、135.5haという県内でも有数の大規模主穀作経営を実践している。
- (2) 大型農機が有効に使えるよう畦畔除去による農地の大区画化や無人ヘリコプターによる病害虫防除などの新技術を導入している。
- (3) 施設水耕ねぎの周年栽培を導入して、収入と雇用の安定化を図っている。
- (4) 耕作放棄地の借り受けによる規模拡大や農地の保全、地域内有機物の利活用など、地元農家の模範となるものである。



株式会社内野農場の皆さん
(左から2番目が代表取締役の内野正雄氏)



大型コンバインによる水稻収穫作業

5 埼玉農業大賞 地域貢献部門 受賞者紹介

地域貢献部門大賞

よしだ まさお のりこ
吉田 昌男・紀子

1 経営概要

- (1) 住 所 所沢市南永井
- (2) 代 表 者 吉田 昌男

2 受賞理由

- (1) 赤じゃがいも（ノーザンルビー）を市のブランド農産物とするため、加工業者と連携してポテトチップスを商品化した。
- (2) 市内の農業者と飲食店が連携した「ところ産食プロジェクト」に参画し、地域交流イベントに積極的に参加している。
- (3) 平成初期に灌水設備を導入するなどして栽培技術の確立に尽力した^{はすば}蓮葉系さといもは、現在、産地の主流となっている。
- (4) 農林水産大臣から先導的な6次産業化の実践者として「ボランティア・プランナー」に任命され、農業者等の相談役として活躍している。



吉田紀子氏(左)、吉田昌男氏(右)



赤じゃがいものピンクポテトチップス

地域貢献部門優秀賞

かとう ひろし まさよ
加藤 博司・政代

1 経営概要

- (1) 住 所 入間市二本木
- (2) 代 表 者 加藤 博司

2 受賞理由

- (1) 昭和40年代から研修生の受け入れや就農促進研修会の開催など一貫して後継者の育成に力を注いでいる。
- (2) 学校ファームが定着する以前から、小中学生を対象に農作業体験や味噌作り体験を指導し、農と食の大切さを伝えている。
- (3) 「入間市ふれあい朝市推進協議会」の会長として、市内産農産物の販売を通じて、市民の地元農業の理解を深める活動を行っている。
- (4) 遊休農地等を活用し、地元豆腐製造業者のニーズに合わせた在来大豆を栽培するなど、遊休農地の解消や地元産業の発展に貢献している。



加藤政代氏(左)、加藤博司氏(右)



味噌加工施設で視察案内

地域貢献部門優秀賞

な ら か こう け ん き ゅ う かい 奈良加工研究会コスモス

1 経営概要

- (1) 住 所 熊谷市四方寺
- (2) 代 表 者 会長 なかむら 中村 ちよこ 千代子
- (3) 構 成 員 28人

2 受賞理由

- (1) 28名の担い手農家の妻で構成され、市内の小中学校等で行われる食育や農業体験の講師を務めている。
- (2) 平成25年度の受講者は935人で、活動を開始した平成12年からの受講者数は、延べ1万人を超えている。
- (3) 平成13年から地場農産物の加工を開始し、味噌づくりや小麦を使った揚げ菓子の加工アレンジを行うなど地産地消に貢献している。
- (4) 熊谷市農業活性化センター周辺の休耕田を活用してコスモス栽培を始め、地域の景観形成に寄与している。



奈良加工研究会コスモスの皆さん
(前列左から4番目が会長の中村千代子氏)



食育活動の様子

MEMO

埼玉を
もっと、
食べよう！



笑味ちゃん



JAグループさいたま

JA埼玉県中央会
JA全農さいたま

JAバンク埼玉県信連
JA共済連埼玉



©みんなのよい食プロジェクト